

2024年9月25日
株式会社アイスタット
News Release

株式会社アイスタット マンスリーレポート

- 次期首相に関するアンケート -

(調査期間：2024年9月20日)

岸田首相が自民党総裁選挙に立候補しない意向を表明し、次期首相が誰になるか気になるところです。株式会社アイスタット（本社：東京都杉並区、代表取締役社長：志賀保夫）は、選挙権がある18才から働き盛りの世代を対象に、次期首相の関心度、次期首相が「気になる人」と「気にならない人」の違いは何かを調べる目的で、次期首相に関するアンケート調査を実施しました。

本調査は、業界最大規模のモニター数を誇るセルフ型アンケートツール「Freeasy」を提供するアイブリッジ株式会社（本社：大阪府大阪市）の会員 18 歳～69 歳を対象に調査を実施しました。

調査結果サマリー

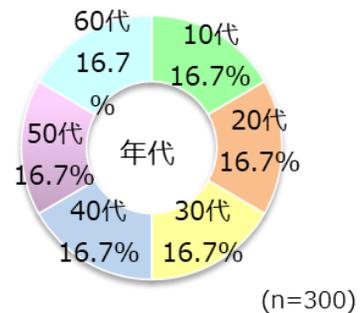
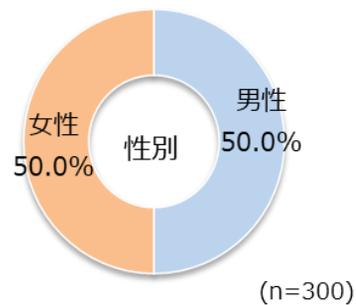
- ✔ **次期首相が誰になるか気になっている人は7割！**
- ✔ **次期首相が気にならない人の理由、第1位は「誰が首相になっても同じだから」**
- ✔ **首相に期待することは「日本の経済力を回復させ、名目GDPシェアを向上させること」が最多**
- ✔ **今、支持または応援・期待している政党がない人は5割を超える！
「自民党」「立憲民主党」を支持している人は、次期首相が「気になる」の回答が多い！**
- ✔ **衆議院・参議院・地方自治体の選挙で必ず投票している人は4割近く！
選挙は「必ず投票」「まあまあ投票」している人は、次期首相が「気になる」の回答が多い！**

調査概要

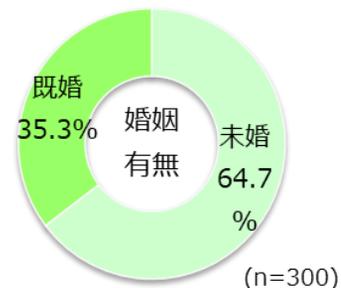
形式	Webアンケート形式
調査期間	2024年9月20日
回答者	セルフ型アンケートツールFreeasyに登録している18歳～69歳の会員300人
調査機関	株式会社アイスタット

【回答者属性】

全体		300名	100.0%
性別	男性	150名	50.0%
	女性	150名	50.0%
年代	10代	50名	16.7%
	20代	50名	16.7%
	30代	50名	16.7%
	40代	50名	16.7%
	50代	50名	16.7%
	60代	50名	16.7%
有婚無姻	未婚	194名	64.7%
	既婚	106名	35.3%
居住地	北海道・東北地方	37名	12.3%
	関東地方	125名	41.7%
	中部地方	43名	14.3%
	近畿地方	50名	16.7%
	四国・中国・九州地方・沖縄	45名	15.0%
職業	会社員(正社員)	77名	25.7%
	会社員(契約・派遣社員)	12名	4.0%
	経営者・役員	5名	1.7%
	公務員(教職員を除く)	6名	2.0%
	自営業	10名	3.3%
	自由業	8名	2.7%
	医師・医療関係者	3名	1.0%
	専業主婦	32名	10.7%
	学生	51名	17.0%
	パート・アルバイト	39名	13.0%
	無職	50名	16.7%
	その他	7名	2.3%



平均年齢 (40.9才)



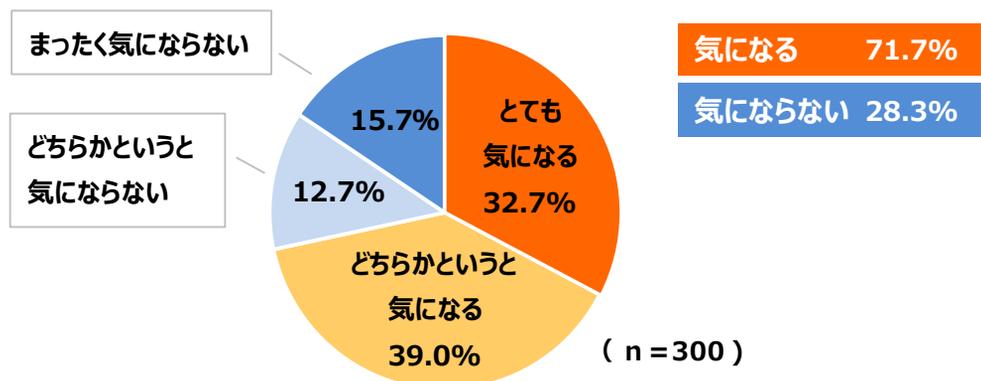
主な分析結果

次期首相が誰になるか気になっている人は7割！

岸田首相が自民党総裁選挙に立候補しない意向を表明した。そこで、次期首相が誰になるか気になるかを聞いたところ、「気になる」が71.7%、「気にならない」が28.3%で「気になる」が大きく上回った。

「気になる」を回答した人の属性をみると、「60代」「女性」「既婚」「子供あり」「近畿地方」「専業主婦」で最も多かった。その一方、「気にならない」を回答した人の属性は、「20代」「男性」「未婚」「子供なし」「中部地方」「無色・その他」で最も多かった。

【Q1】 あなたは、日本の首相が誰になるか気になりますか。（回答は1つ）



▼ 独立性の検定（カイ二乗検定）

クラメール連関係数 ↓

次期首相が気になるかとの関連	p値	判定	相関
年代	0.005	[**]	0.235
性別	0.522	[]	0.037
婚姻有無	0.280	[]	0.062
子供の有無	0.040	[*]	0.118
居住地	0.381	[]	0.118
職業	0.690	[]	0.087

独立性の検定

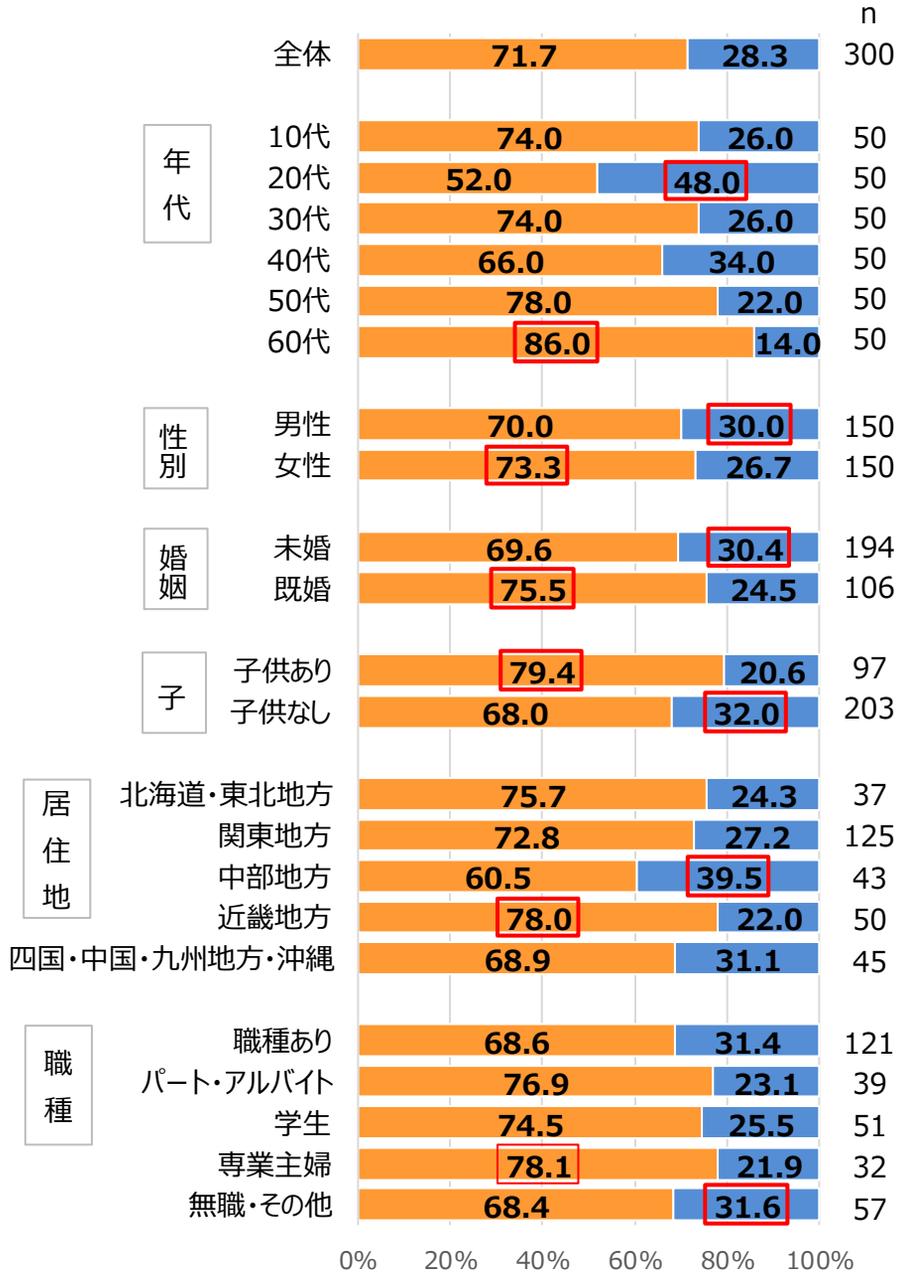
クロス集計を行った結果が、母集団においても関連性があるといえるかを調べる。判定[*]は、母集団に関連性があるといえる。

クラメール連関係数（相関）

行項目と列項目の関連の強さを示す指標で、0.1以上は2項目間に相関（関連）があるといえる。

次期首相が誰になるか

■ 気になる ■ 気にならない



※ 表側項目内を縦に見て最大に赤枠

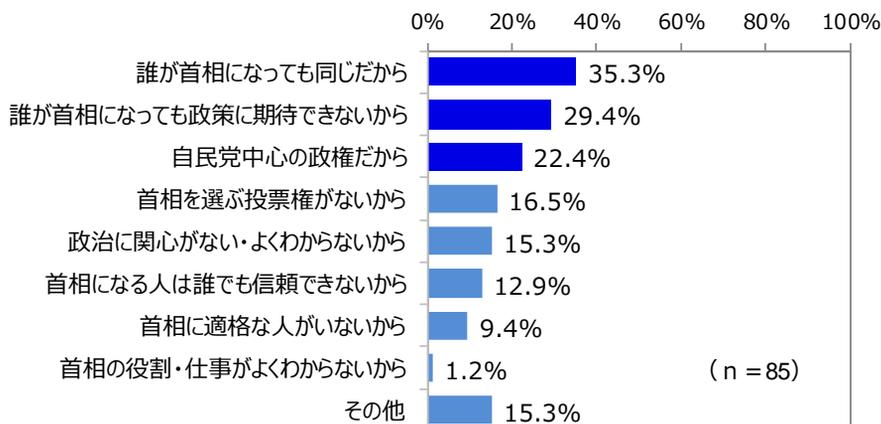
次期首相が気にならない人の理由、第1位は「誰が首相になっても同じだから」

「次期首相が気にならない」を回答した人（85名）を対象に、その理由を複数回答で聞いたところ、「誰が首相になっても同じだから」が35.3%で最も多く、次に「誰が首相になっても政策に期待できないから」の29.4%、「自民党中心の政権だから」の22.4%と続いた。

年代別でみると、第1位の「誰が首相になっても同じだから」を回答した人は「30代」で最も多く、第2位の「誰が首相になっても政策に期待できないから」を回答した人は「60代」で最も多く、第3位の「自民党中心の政権だから」を回答した人は「20代」で最も多かった。

< 「次期首相が誰になるか気にならない」を回答した人（85名）が対象 >

【Q2】「気にならない」を回答した理由をお知らせください。（回答はいくつでも）



(横%表)

		次期首相が誰になるか気にならない理由									n
		誰が首相になっても同じだから	誰が首相になっても政策に期待できないから	自民党中心の政権だから	首相を選ぶ投票権がないから	政治に関心がない・よくわからないから	首相になる人は誰でも信頼できないから	首相に適格な人がいないから	首相の役割・仕事がよくわからないから	その他	
全体		35.3	29.4	22.4	16.5	15.3	12.9	9.4	1.2	15.3	85
年代	10代	15.4	15.4	7.7	15.4	15.4	7.7	7.7	0.0	30.8	13
	20代	20.8	16.7	45.8	8.3	12.5	0.0	0.0	0.0	20.8	24
	30代	61.5	30.8	7.7	15.4	23.1	30.8	23.1	0.0	7.7	13
	40代	41.2	41.2	29.4	23.5	17.6	23.5	11.8	5.9	0.0	17
	50代	36.4	18.2	0.0	18.2	18.2	9.1	9.1	0.0	27.3	11
	60代	57.1	85.7	14.3	28.6	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	7
性別	男性	35.6	28.9	26.7	20.0	15.6	15.6	13.3	0.0	11.1	45
	女性	35.0	30.0	17.5	12.5	15.0	10.0	5.0	2.5	20.0	40

各項目を縦に見て最大値に彩色

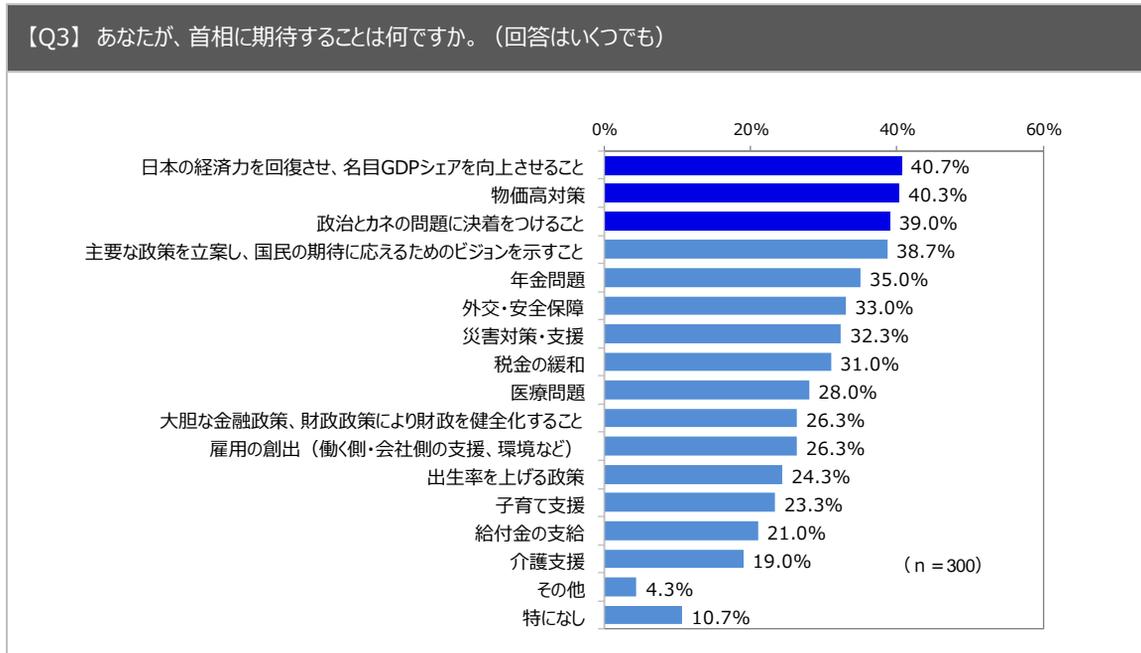
n = 30未満は参考値

首相に期待することは

「日本の経済力を回復させ、名目GDPシェアを向上させること」が最多！

首相に期待することは何かを複数回答で聞いたところ、「日本の経済力を回復させ、名目GDPシェアを向上させること」が40.7%で最も多く、次に「物価高対策」の40.3%、「政治とカネの問題に決着をつけること」の39.0%の順で続いた。

各年代（50名）ごとでみると、「10代」「60代」は「年金問題」が最も多く、「20代」は「日本の経済力を回復させ、名目GDPシェアを向上させること」、「30代」「50代」は「物価高対策」、「40代」は「政治とカネの問題」が最も多かった。



(横%表) ※ 各項目を縦に見て最大値に彩色 ※ 各項目を横に見て最大値に赤赤字&赤枠 並び替え：全体の降順

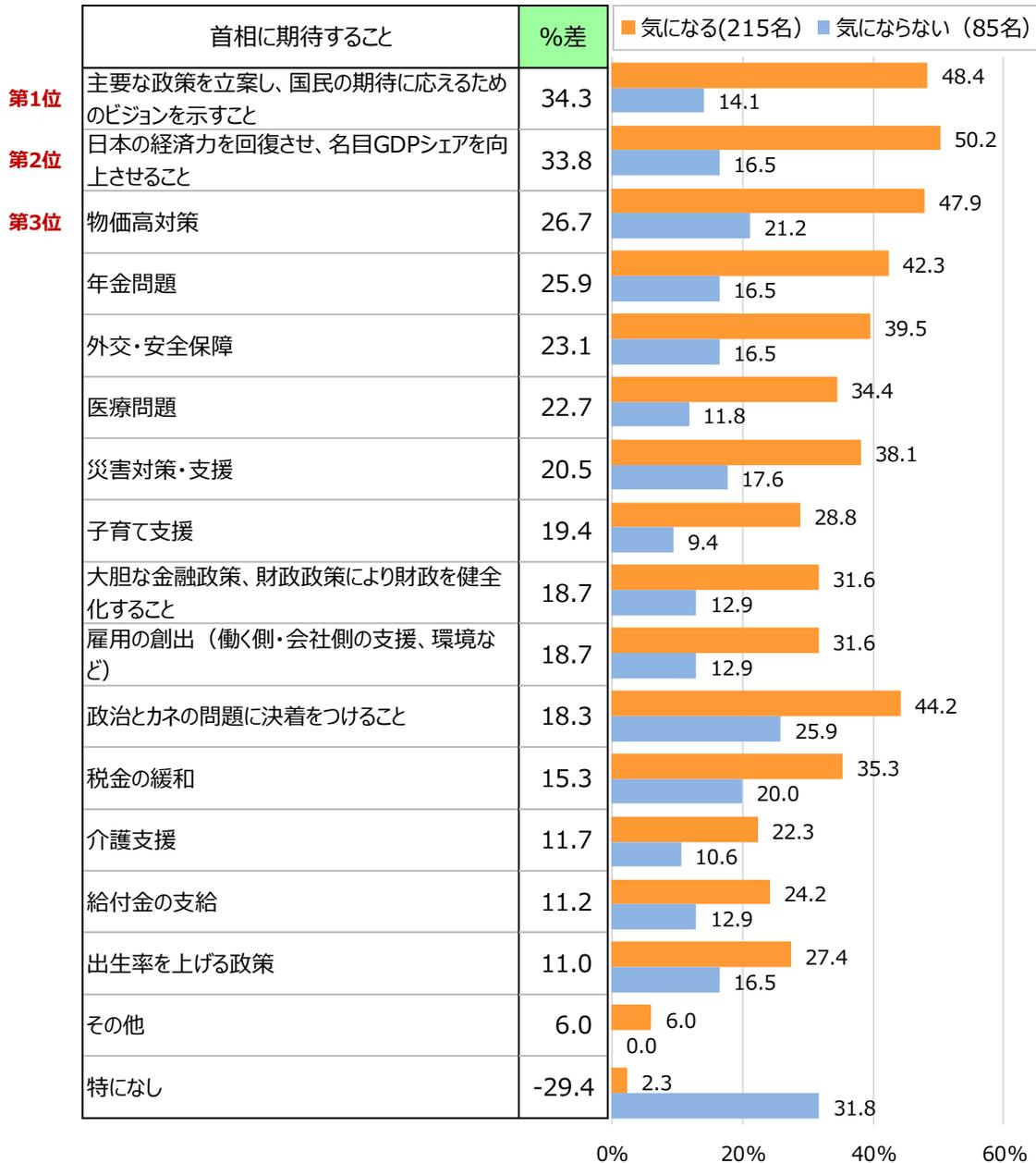
次期首相に期待すること		日本の経済力を回復させ、名目GDPシェアを向上させること	物価高対策	政治とカネの問題に決着をつけること	主要な政策を立案し、国民の期待に応えるためのビジョンを示すこと	年金問題	外交・安全保障	災害対策・支援	税金の緩和	医療問題	より大胆な金融政策、財政政策により財政を健全化すること	雇用の創出（働く側・会社側の支援、環境など）	出生率を上げる政策	子育て支援	給付金の支給	介護支援	その他	特になし	n
全体		40.7	40.3	39.0	38.7	35.0	33.0	32.3	31.0	28.0	26.3	26.3	24.3	23.3	21.0	19.0	4.3	10.7	300
年代	10代	32.0	22.0	30.0	32.0	34.0	28.0	14.0	22.0	26.0	14.0	20.0	14.0	32.0	18.0	16.0	4.0	18.0	50
	20代	36.0	26.0	22.0	28.0	10.0	12.0	18.0	20.0	8.0	20.0	16.0	20.0	4.0	10.0	4.0	2.0	16.0	50
	30代	40.0	54.0	42.0	44.0	38.0	44.0	46.0	42.0	40.0	34.0	32.0	34.0	32.0	36.0	20.0	4.0	8.0	50
	40代	38.0	36.0	50.0	42.0	30.0	34.0	32.0	32.0	28.0	20.0	34.0	20.0	20.0	28.0	18.0	10.0	12.0	50
	50代	46.0	50.0	40.0	44.0	38.0	34.0	36.0	30.0	26.0	32.0	26.0	16.0	22.0	22.0	22.0	4.0	10.0	50
	60代	52.0	54.0	50.0	42.0	60.0	46.0	48.0	40.0	40.0	38.0	30.0	42.0	30.0	12.0	34.0	2.0	0.0	50

カイ二乗検定：p値	0.367	0.001	0.023	0.415	0.000	0.004	0.000	0.091	0.004	0.037	0.262	0.005	0.006	0.012	0.009	0.389	0.056	
判定	[]	[**]	[*]	[]	[**]	[**]	[**]	[]	[**]	[*]	[]	[**]	[**]	[*]	[**]	[]	[]	
クramerル連関係数	0.134	0.267	0.209	0.129	0.308	0.239	0.274	0.178	0.240	0.199	0.147	0.237	0.233	0.221	0.226	0.132	0.190	

※ p値<0.05の内容は、クロス集計を行った結果が、母集団においても関連性があるといえる

次期首相が「気になる人」と「気にならない人」の回答の違いは何かを「%差」より調べた。最も違いがみられた内容は、34.3%差の「主要な政策を立案し、国民の期待に応えるためのビジョンを示すこと」、次に33.8%差の「日本の経済力を回復させ、名目GDPシェアを向上させること」、26.7%差の「物価高対策」と続いた。

並び替え：%差の降順



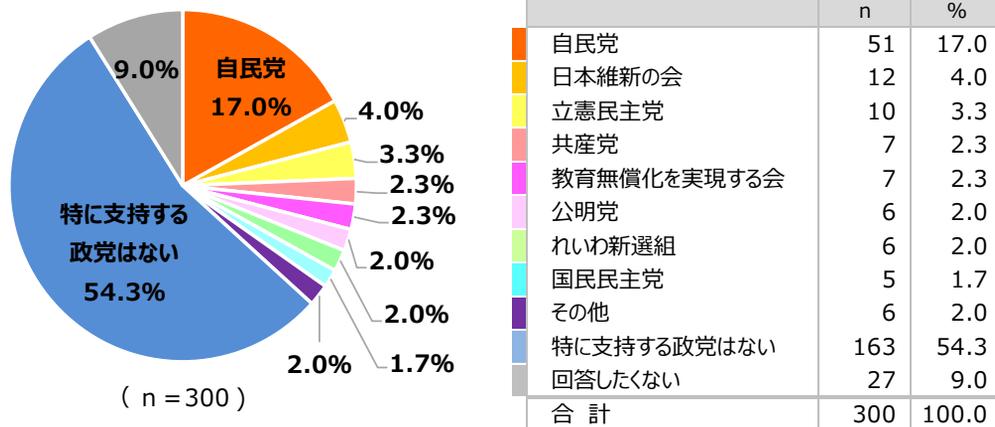
今、支持または応援・期待している政党がない人は5割を超える！

「自民党」「立憲民主党」を支持している人は、次期首相が「気になる」の回答が多い！

今、支持している政党または応援・期待している政党があるかを聞いたところ、「特に支持する政党はない」が54.3%で最も多く、半数を超える結果であった。次に「回答したくない」を除くと「自民党」の17.0%、「日本維新の会」の4.0%、「立憲民主党」の3.3%の順で続いた。

次期首相が「気になる」「気にならない」別にみると（プロフィール分析）、「次期首相が気になる」を回答した人の支持または応援・期待している政党は、「自民党」「立憲民主党」「れいわ新選組」「国民民主党」「共産党」の方が多く、「次期首相が気にならない」を回答した人は、「それ以外の政党」「支持政党なし」「回答したくない」の方が多く結果であった。

【Q4】 今、あなたはどの政党を支持していますか。または、支持するまでいなくても応援・期待している政党がありますか。（回答は1つ）



(横%表)

並び替え：①彩色ごと ②全体と彩色の差の降順

		支持政党または応援・期待している政党										
		自民党	立憲民主党	れいわ新選組	国民民主党	共産党	公明党	教育無償化を実現する会	日本維新の会	その他	特に支持する政党はない	回答したくない
全体		17.0	3.3	2.0	1.7	2.3	2.0	2.3	4.0	2.0	54.3	9.0
次期首相	気になる	20.5	4.2	2.8	2.3	2.8	1.4	1.9	3.7	1.9	52.6	6.0
	気にならない	8.2	1.2	0.0	0.0	1.2	3.5	3.5	4.7	2.4	58.8	16.5

各項目を縦に見て最大値に彩色

クラメール連関係数↓

独立性の検定 (カイ二乗検定)	p値	判定	相関
次期首相 × 支持政党	0.014	[*]	0.272

属性別にみると、「特に支援する政党はない」を回答した人は「40代」「女性」「中部地方」で最も多く、「自民党」を回答した人は「10代」「50代」「男性」「北海道・東北地方」で最も多かった。

(横%表)

並び替え：全体の降順

		支持政党または応援・期待している政党											n
		自民党	日本維新の会	立憲民主党	共産党	教育無償化を実現する会	公明党	れいわ新選組	国民民主党	その他	特に支持する政党はない	回答したくない	
全体		17.0	4.0	3.3	2.3	2.3	2.0	2.0	1.7	2.0	54.3	9.0	300
年代	10代	20.0	0.0	4.0	0.0	8.0	0.0	2.0	0.0	2.0	40.0	24.0	50
	20代	12.0	8.0	8.0	8.0	4.0	6.0	0.0	2.0	2.0	42.0	8.0	50
	30代	18.0	2.0	0.0	4.0	2.0	0.0	6.0	0.0	2.0	60.0	6.0	50
	40代	16.0	0.0	6.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	68.0	4.0	50
	50代	20.0	8.0	0.0	0.0	0.0	4.0	2.0	2.0	2.0	54.0	8.0	50
	60代	16.0	6.0	2.0	0.0	0.0	2.0	2.0	4.0	2.0	62.0	4.0	50
性別	男性	22.0	4.7	4.7	2.0	3.3	1.3	3.3	2.7	2.0	46.0	8.0	150
	女性	12.0	3.3	2.0	2.7	1.3	2.7	0.7	0.7	2.0	62.7	10.0	150
居住地	北海道・東北地方	24.3	5.4	0.0	0.0	5.4	8.1	2.7	0.0	0.0	43.2	10.8	37
	関東地方	20.8	0.8	3.2	0.8	2.4	0.0	2.4	2.4	1.6	58.4	7.2	125
	中部地方	4.7	7.0	0.0	4.7	0.0	4.7	0.0	2.3	0.0	65.1	11.6	43
	近畿地方	16.0	8.0	8.0	8.0	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0	42.0	12.0	50
	四国・中国・九州地方・沖縄	13.3	4.4	4.4	0.0	2.2	0.0	4.4	2.2	6.7	55.6	6.7	45

各項目を縦に見て最大値に彩色

クラメール連関係数↓

独立性の検定（カイ二乗検定）→

支持政党との関連	p値	判定	相関
年代	0.005	[**]	0.230
性別	0.073	[]	0.239
居住地	0.016	[*]	0.227

衆議院・参議院・地方自治体の選挙で必ず投票している人は4割近く！

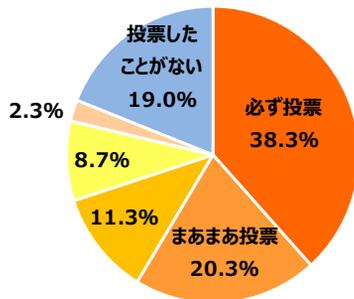
選挙は「必ず投票」「まあまあ投票」している人は、次期首相が「気になる」の回答が多い！

衆議院・参議院・地方自治体の選挙の投票状況を聞いたところ、「必ず投票している」が38.3%で最も多く、次に「必ずではないが、まあまあ投票している」の20.3%、「今までに選挙で投票したことが1度もない」の19.0%の順で続いた。

次期首相が「気になる」「気にならない」別にみると（プロフィール分析）、次期首相が「気になる」を回答した人の選挙の投票状況は「必ず投票」「必ずではないが、まあまあ投票」の方が多く、次期首相が「気にならない」を回答した人の選挙の投票状況は「気が向いた時」「関心がある時」「応援したい人が出馬」「投票したことが無い」の方が多い妥当な結果であった。

首相を決める選挙は、国政選挙や地方選挙のように一般国民に選挙権があるわけではないが、衆議院・参議院・地方自治体の選挙で自分が投票した「1票」が首相選定に大きな意味を持つこともある。さて、次の首相（101代目）は誰になるのでしょうか。

【Q5】 衆議院・参議院・地方自治体の選挙で、あなたのこれまでの投票状況をお知らせください。（回答は1つ）



(n = 300)

	n	%
必ず投票している	115	38.3
必ずではないが、まあまあ投票している	61	20.3
気が向いた時、都合があつ時の選挙のみ、投票している	34	11.3
関心がある時、投票している	26	8.7
応援したい人が出馬した時の選挙のみ、投票している	7	2.3
今までに選挙で投票したことが1度もない	57	19.0
合計	300	100.0

(横%表)

		衆議院・参議院・地方自治体の選挙の投票状況						n
		必ず投票している	必ずではないが、まあまあ投票している	気が向いた時、都合があつ時の選挙のみ、投票している	関心がある時、投票している	応援したい人が出馬した時の選挙のみ、投票している	今までに選挙で投票したことが1度もない	
全体		38.3	20.3	11.3	8.7	2.3	19.0	300
次期首相	気になる	45.1	23.3	8.8	8.4	2.3	12.1	215
	気にならない	21.2	12.9	17.6	9.4	2.4	36.5	85

各項目を縦に見て最大値に彩色

クラメール連関係数 ↓

独立性の検定 (カイ二乗検定)	p 値	判定	相関
次期首相 × 選挙の投票状況	0.000	[**]	0.344

年代別にみると、「必ず投票している」を回答した人は「60代」で最も多かった。その一方、「今までに選挙で投票したことが1度もない」を回答した人は「10代」で最も多く、次に「20代」で多かった。これより、若い世代ほど投票に行っていないことが明らかとなり、将来の日本にとって大きな課題と見受けられた。

(横%表)

		衆議院・参議院・地方自治体の選挙の投票状況						n
		必ず投票している	必ずではないが、まあまあ投票している	関心が持てる選挙だけ、投票している	応援したい人が出馬した時の選挙のみ、投票している	気が向いた時、都合がある時の選挙のみ、投票している	今までに選挙で投票したことが1度もない	
全体		38.3	20.3	8.7	2.3	11.3	19.0	300
年代	10代	24.0	8.0	12.0	4.0	4.0	48.0	50
	20代	26.0	18.0	12.0	6.0	8.0	30.0	50
	30代	46.0	20.0	8.0	2.0	10.0	14.0	50
	40代	40.0	22.0	0.0	0.0	22.0	16.0	50
	50代	42.0	28.0	12.0	2.0	12.0	4.0	50
	60代	52.0	26.0	8.0	0.0	12.0	2.0	50
性別	男性	42.7	18.0	8.0	1.3	10.7	19.3	150
	女性	34.0	22.7	9.3	3.3	12.0	18.7	150
婚姻有無	未婚	36.6	18.0	7.7	2.1	9.3	26.3	194
	既婚	41.5	24.5	10.4	2.8	15.1	5.7	106
子の有無	子供あり	40.2	24.7	11.3	3.1	15.5	5.2	97
	子供なし	37.4	18.2	7.4	2.0	9.4	25.6	203
居住地	北海道・東北地方	56.8	16.2	5.4	8.1	5.4	8.1	37
	関東地方	40.0	22.4	6.4	2.4	8.8	20.0	125
	中部地方	23.3	14.0	7.0	0.0	27.9	27.9	43
	近畿地方	34.0	28.0	10.0	0.0	10.0	18.0	50
	四国・中国・九州地方・沖縄	37.8	15.6	17.8	2.2	8.9	17.8	45
職業	職種あり	45.5	22.3	7.4	2.5	10.7	11.6	121
	パート・アルバイト	35.9	15.4	12.8	0.0	23.1	12.8	39
	学生	29.4	11.8	5.9	2.0	2.0	49.0	51
	専業主婦	34.4	28.1	15.6	3.1	12.5	6.3	32
	無職・その他	35.1	22.8	7.0	3.5	12.3	19.3	57

各項目を縦に見て最大値に彩色

クラメル連関係数↓

独立性の検定 (カイ二乗検定) →

投票状況との関連	p値	判定	相関
年代	0.000	[**]	0.222
性別	0.572	[]	0.113
結婚	0.001	[**]	0.258
子供	0.001	[**]	0.256
居住地	0.006	[**]	0.182
職業	0.000	[**]	0.207

今月のレベルup↑ 母比率の推定

母集団の割合は〇%～〇%の間にある、例えば「内閣支持率は47%～53%の間にある」と幅を持たせて推定する方法を母比率の推定という。

母比率の推定は標本調査から得られた割合から区間を求め、区間を用いて母集団の割合を推定する方法である。この区間のことを「信頼区間」といい、論文などでは略語表記として「CI」が用いられる。

- 信頼度95%[95%CI]・・・推定する母割合が信頼区間に収まる確率は95%
- 信頼度99%[99%CI]・・・推定する母割合が信頼区間に収まる確率は99%

母比率の区間推定はサンプルサイズnが30以上か否かによって推定方法が異なる。

nが30以上はz推定、30未満はF推定を適用する。 ※「母比率の推定」の求め方はこちら

Q1. 次期首相が誰になるか気になりますか？ 「気になる」の信頼区間は？

■単純集計

次期首相	n	全体 %
気になる	215	71.7%
気にならない	85	28.3%
全体	300	100.0%

次期首相が気になる人の割合を調べるために
n = 300の標本調査を行った。
「気になる」の割合は71.7%であった。

■母比率の推定

母集団：無限 公式：Z推定

n	300	
	[95%]	[99%]
上限値	76.8%	78.4%
比率	71.7%	71.7%
下限値	66.6%	65.0%
±値	5.1%	6.7%

信頼度95%で、母集団の「気になる率」を推計すると
気になる割合は66.6%から76.8%の間にあるといえる。

Q2. 次期首相×物価高対策・・・「気になる」と「気にならない」の差分の信頼区間は？

首相に期待すること	次期首相が誰になるか		n		%		母比率の差の検定 (z検定)				信頼区間 95%	
	群1	群2	群1	群2	群1	群2	%差	統計量	p値	判定	下限値	上限値
物価高対策	気になる	気にならない	215	85	47.9	21.2	26.7%	4.3	0.000	[**]	14.4%	39.0%

<解釈例>

首相に期待することで「物価高対策」を回答した人の次期首相が「気になる」割合は47.9%、「気にならない」割合は21.2%で、差分（違い）は26.7%であった。

信頼度95%で、気になる・気にならないの差分（違い）は14.4%～39.0%の間にあるといえる。
(n = 30人以上のため、z推定を適用)

サマリーレポートはこちらを参照ください。

<https://istat.co.jp/investigation/2024/09/result>

統計分析研究所 株式会社アイスタットについて

【株式会社アイスタット（統計分析研究所）会社概要】

◇所在地 〒166-0011 東京都杉並区梅里1-22-26 パラドール東高円寺3F（旧YTビル）

◇設立 2011年6月2日

◇代表者 代表取締役社長 志賀 保夫 / 代表取締役会長 菅 民郎

◇事業内容 株式会社アイスタット(統計分析研究所)は、統計学 を礎とした情報サービス業 に従事して
います。

◆本調査・弊社事業などに関するお問合せ先◆

統計分析研究所 株式会社アイスタット <https://istat.co.jp/>

総務部 橋本 有子 (somu@istat.jp) TEL: 03-3315-7637/FAX: 03-3315-7660

サービスのご案内

株式会社アイスタット(統計分析研究所)は、統計学 を礎とした情報サービス業 に
従事しています。「わかりやすい統計学」をモットーに、8つのコア・サービスを
みなさまにご提供いたします。

